

地球観測衛星の活用により、**河川堤防の管理を効率化**

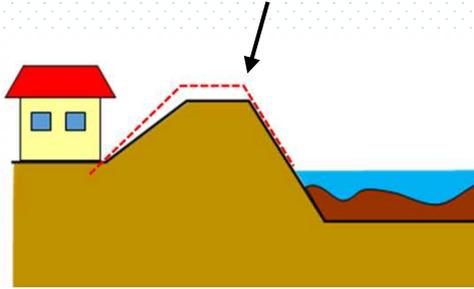
－目視点検でわからない堤防の沈下量把握－

事業の目的

- ◆目視による堤防点検では、**経年的な沈下状況の把握が困難**
- ◆これまでは、**現地測量**などにより堤防の変動調査を実施
- ◆経年変化を確認するため、**継続的に調査する必要があるが、調査延長が約720kmと長い**ため、**費用と時間を要する**

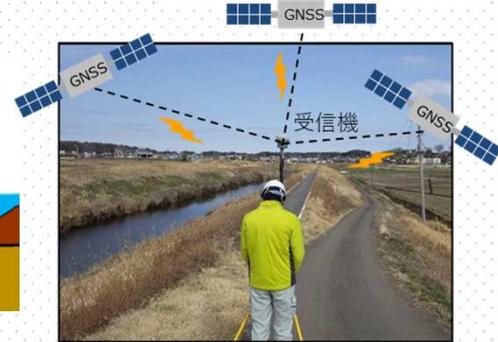
【堤防沈下イメージ】

目視による把握が困難



【これまでの調査手法】

現地で移動しながら計測

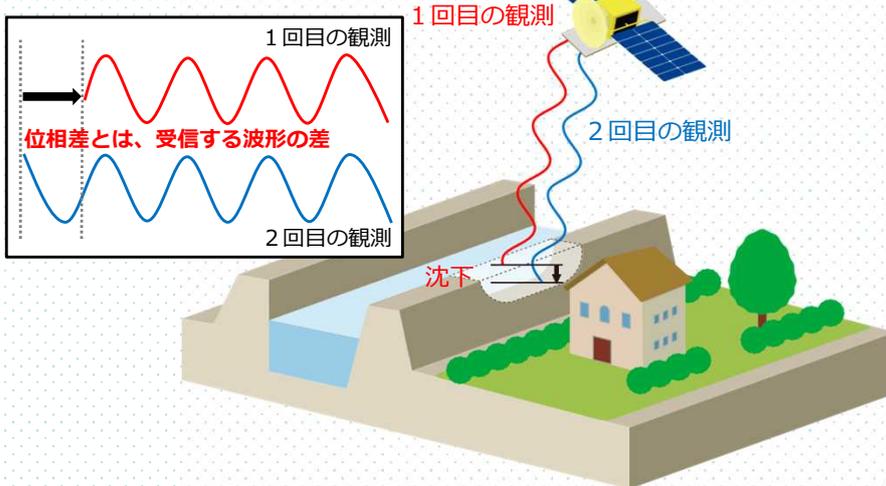


より効率的な調査手法の検討が必要！

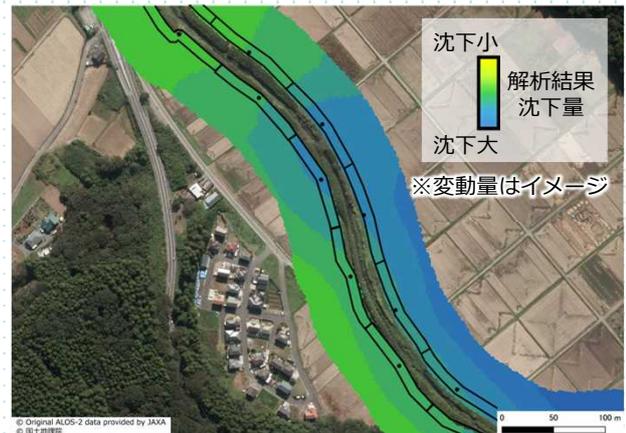
事業の概要

調査の効率化を図るため、**堤防の沈下量を衛星を使って測定**する調査手法を導入！！

【観測方法イメージ】



【観測データ解析結果】



- ◆衛星から**マイクロ波**を地表面に照射し反射波を観測、観測データの**位相差**により地表面の**沈下量**を把握

- ◆すべての箇所で現地測量を行わなくても、沈下傾向の大きい**要注意箇所を抽出**

要注意箇所の現地測量で詳細に調査

【今後について】



- ◆衛星データ解析結果を**1次スクリーニング**として活用し、**効率的かつ適切な堤防管理**を行う

事業の効果

- ◆**経年的な河川堤防の変化を把握可能**
- ◆**コストを縮減、調査期間を短縮**
(720 kmの調査に10年間かかるところ、**4年間での調査が可能に！**)

調査期間の短縮やコストの削減が可能となり、**河川堤防の管理が効率化！！**